

# 「東日本大震災」対策 news NO.31

2011年4月15日(金)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## 浜岡原発、すぐ停止を

静岡県評は、ディーセントワークデーの取り組みとして、「東日本大震災募金」と「浜岡原発即時停止署名」に取り組みました。参加者は31人、生協しずおか労組からは2人が参加しました。

「浜岡原発即時停止署名」はチラシ500枚を配布し、原発の恐ろしさ、特に浜岡原発は震源域の上に建っていることから、即時停止が急務であることを訴え、1時間で151筆が集まりました。電力不足を心配する声もありましたが、中部電力管内での浜岡の比重は低く、完全停止しても停電はしないことを駿河湾地震の時を事例上げて説明しました。年齢の高い方、女性の方の署名が多かったようでした。赤ちゃん連れのお母さんや、おなかの大きい方が、無関心だったのが気になりました。

(生協しずおか労組 佐伯かをり)

### 仙台市宮城野区に入ったコープ熊本学校生協労組緒方書記長の報告

13日は、仙台市の訪問活動でした。朝、活動前に事務所で「緊急地震速報」を伝える携帯着信音。震度3でしたが、余震が続いているため、身体に揺れを感じません。訪問先の組合員さん宅は、今までの沿岸部と比べ被害は大きくありません。しかし、そこに暮らす組合員さんの「(余震が続き)この家が、地震で倒壊しないと思って暮らしていくしかないわね」という言葉が心に残りました。

コープ共済の給付に向けベアで事務作業



### 生協労連大井書記からの報告 みやぎ生協石巻支部の業務支援に参加して

石巻の方々の、優しさにふれる1週間でもありました。支援物資をもっと、困っている人に渡してあげてとおっしゃられる方、今回の注文抽選ばかりだから、本当に必要なところに商品が届かなくなってしまわないように、今回注文なしの方、そのような方本当に多かったです。(同じサンネットのコープあおもりでも同じようなことで、注文回収が普段の3割だったそうです。)

石巻支部でも、支援メンバーの食事を用意していただきました。お風呂の心配もしていただきました。(おかげで、温泉や自衛隊のお風呂に入らせていただきました。) どちらが、支援しているのかわからなくなるぐらい、気を使っていたいただきました。感謝とともに、人に対する心遣いを学ばせていただきました。本当に良い経験になりました。

ボランティアの受け入れが、我々の支援中に石巻では本格的に始まりました。ボランティアをおこなう側、受け入れる側、どちらも人的に不足していると思います。被災地・被災者はこれから疲弊・疲労が長期にわたり続いてくると思います。継続的な支援が、物資・金銭・人手ともに必要と思います。今回の支援メンバーは、全員男性で組織しました。治安が悪く、危険だからだとの判断だと思います。配達を担当者は、女性が多かった



ので、女性ならではの会話がしたかったと思います。現地の状況が許せば、女性も支援に行き、お話をすることが、メンタルのケアになるのではないかと思います。

日本の防災のあり方が、今後大きく変わっていくと思います。エネルギーのあり方も大きく変わることは想像できます。1週間での経験や学んだこと、被災された方の想いや実際に起きた事実を伝えることで、今後の防災、地域の中での生協のあるべき姿を、皆で考えるお手伝いをしていかななくてはならないと思っています。

支援に行きたいと手を上げた方が、多いと聞いています。そんな中で支援に行く機会をいただき、ありがとうございました。支援に行くというより、感動や気付きが多く、今後に活かされること、東北の人のあったかさを、感じて帰ってきました。今後は、愛知を離れて東京で仕事することになりますが、この経験を必ず活かすよう、今の気持ちを忘れないように、していきます。今回は、ありがとうございました。

最後に、生協の労働組合で、働くことになった私にとって、とてもうれしく励みになるのは、多くの職員が、『生協で働いていて本当に良かった。』とおっしゃっていたことです。この言葉を忘れずに、努力してまいります。

以上、報告させていただきます。

## ボランティア活動に参加して 東海地連若井書記長

先ほど名古屋に無事到着しました。被災地は、ガソリンがしっかり行き届き、電気・水道も復旧してきて、ようやく避難所から自宅に帰って、浸水の後片付けをする家庭が増えてきています。したがって、片付け等のボランティアはいくらいても足りません。昨日お手伝いさせていただいたお宅では、市にボランティア派遣を申し込んだら「1ヶ月待ち」と言われて途方にくれていたそうです。なので、私たちが行って大変喜ばれ感謝されました。物資も、必要なものが変化しつつありますが、地域によっては全く行き渡っていません。店舗も営業再開していますが、すぐに売切れてしまうようです。刻々と変わる現地の要望をしっかり把握し、必要な物資を届ける事も必要です。昨日午後に行った物資配布では、衛生用品・下着・カセットコンロなどが大変喜ばれました。

小さな子供さんは、少しでもあった絵本をもらって大喜びしてくれました。マイカーで現地へ直接行きましたが、機動力が不足している支援センターで思いのほか活躍する機会があり、役立たせる事ができました。

これからしばらくの間は、個人宅向けに欠乏している物資をお届けし、後片付けや掃除などを手伝う、「生活再建」のボランティアが大量に必要なと思います。災対連のボランティアセンターは、まだまだ立ち上がったばかりで、少人数でまわしており、機動力や道具の手配、体制の補強や情報の統制など、改善・充実させるべきところはたくさんありますが、参加したメンバーとは、被災地の重い現実と、とにかく何か役に立ちたいという思いや使命感を共有する中で、強く連帯を広げて活動しています。一人でも多くの方が参加していただくことを心から呼びかけます。



石巻市民病院の周辺



住居の跡かたづけ